

令和 7 年度

「運営に関する計画」

中間評価

たくましく希望に満ちた学校をめざして
～夢 きずな 輝き～



大阪市立西天満小学校

令和 7 年 11 月

大阪市立西天満小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

I 学校運営の中期目標

本校の現状と特色ある取組

本校は、明治 5 年（1872 年）に創立され、今年度で創立 153 年を迎える。「子どもは地域の宝物」であるという地域の熱い思いと労を惜しまない支援・協力が本校教育に注がれ、歴史と伝統を積み重ねて今日に至っている。

本校では、学校教育目標に「心身ともにたくましく伸びる子どもを育てる」を掲げ、「考える子」「やさしい子」「がんばる子」の育成をめざしている。

ここ数年で児童数が急増し、今年度の在籍児童数は 298 名。すべての学年が 2 学級となって 4 年目である。いろいろな背景をもった子どもが増えたが、教職員数も増え、学級担任だけでなく専科教員やサポーターなど多くのスタッフが子どもたちに関わりながら、子どもたち一人一人を大切にする教育活動を進めている。

子どもたちの全体的な特徴は、力を入れて指導すればそれに応えて大きな力を発揮できる子が多いこと、また、素直に一生懸命がんばることができる子が多いことだと認識している。家庭での教育力の高さも、その要因の一つとなっていると考えている。

本校の特色ある主な取組を以下に紹介する。

(1) 地域の人々と結びついた教育活動を進めている。

地域の人々と児童との出会いを大切にし、教育活動での結びつきを深めている。自分たちの住んでいる地域のことを知り、地域を愛し、誇りに思う資質を備えた児童を育てるよう様々な取組を進めている。創立 150 周年を機に、これまで国語科で培ってきた読解力や表現力、各教科領域で身に付けた問題解決能力を総動員して、自分たちの住んでいる町の歴史や文化等について探求し、表現できる力を育んできた。今後も自分の学校や町に誇りをもち、地域や社会の発展に寄与する態度や社会の平和を願う心を育てられるよう、生活科や総合的な学習の時間を中心に継続して学習活動を進めていきたいと考えている。

(2) 日記「たくましくのびていこう」を通して、表現力を育てている。

全校児童が毎日日記を書き、可能な限り担任がコメントを記したり、サインをしたりして、その日のうちに返却している。1 日 1 ページ、月に 1 冊のペースで年間 12 冊、6 年間で 72 冊の日記帳を書くことになる。これは、今年度で 60 年目を数える全国にも例のない実践である。卒業生の中には、72 冊の日記帳を「心のアルバム」として今も大切に保管している方がおられたり、親子二代にわたって日記に取り組んだという家庭もあったりする。この実践は児童の書く力を確実に育て、言語活動の充実につながっている。さらには、児童の生活実態や友人関係などを知る手掛かりとなり、いじめの防止等の生活指導にも活かされている。

(3) たてわり活動を通して互いに思いやり、認め合う集団を育てている。

春の全校遠足や年間を通した集会活動等で縦割りの活動を充実させ、上級生が下級生を導き、助け合い、協力し合うことで、学年を超えたつながりが育ち、互いを思いやる気持ち

が育っている。

(4) 我が国の伝統文化を大切にした教育活動を進めている。

我が国の伝統文化を学ぶことにより、我が国の人間性を知るとともに、国際社会で生きる資質につなげるため、琴・和太鼓・書等に取り組んでいて、地域の方にもゲストティーチャーとして参画していただいている。

また、校区には教育資源が豊富にあり、大阪天満宮、堀川戎神社、中央公会堂、こども本の森、天神橋筋商店街など、全国的に有名な文化財等が多数存在する。地域の学習を通して、地域を愛し、地域を担う人材を育成することにも力を注いでいる。

(5) 漢字能力の向上に努めている

児童の漢字に対する興味関心を高め、漢字能力の向上に資するため、全校で漢字検定に取り組んでいる。各自の能力に応じた級を受検することとし、全児童が合格をめざして意欲的に漢字を学習している。その成果として、漢字検定協会による「優秀団体賞」をこれまで8度受賞している。

(6) 「あいさつ」を通じて明るく元気な学校づくりに努めている。

あいさつは仲良くなるための第一歩であり、人を大切にする気持ちや感謝の気持ち、コミュニケーションの基本、心身の健康、明るい学校づくりなど、大切な要素が多く含まれている。人と人とのつながりが希薄になりがちな現代社会でこそ、子どもたちに身に付けさせたい大切な習慣であり、財産になるものと考える。子どもたちと教職員との共通の目標とし、児童会による「あいさつ運動」などの自発的な活動を通して全教職員で指導を進めている。

本校の課題

(1) 望ましい人間関係の構築

相手の気持ちを考えずに発言してしまったり、自分本位に行動してしまったりする児童が、少数ではあるが見られる。学校という集団生活を営む場において、望ましい人間関係を構築するために大切なことは何かということを、しっかりと捉えさせていく必要がある。

(2) 不登校・不登校傾向の解消

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う学校休業明けから、登校しにくい児童が見られるようになった。学級担任からさまざまに働きかけたり、カウンセリングを受けたり、関係機関に相談したりしているが、解決が難しい事案もある。

(3) 学力における二極化の解消

全国学力・学習状況調査や大阪市小学校学力経年調査、大阪府すぐすくウォッチなど、平均点だけを見ると大変良い結果が出ているが、細かく分析してみると、どの学年にも市の平均点に届かない児童が見られる。

(4) ICT を活用した教育のさらなる推進

新型コロナウイルス感染症の影響で GIGA スクール構想が前倒しとなり、この5年間でICT 教育環境が激変した。全学年において、デジタルドリルの活用を行うようになるとともに、児童の発達段階に応じて、Teams や多肢選択問題を用いた学習ゲームシステムを活用した協働的な学習にも取り組んでいる。ICT 教育環境が整うことは学校現場としても大変ありがたいことであるが、一人一台 PC にアンケート機能や相談機能等の様々な機能が加わり、教員と児童が全ての機能を使いこなしていくためには、工夫を凝らした取組を進めいかなければならない。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を95%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を増加させない。
- 小学校学力経年調査における、「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「あてはまる」と回答する児童の割合を45%以上にする。
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率をいずれの学年も毎年全国値を5ポイント以上回るようにする。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

【ＩＣＴの活用に関する目標】

- 1人1台学習者用端末の年間活用率を90%以上にする。

【教職員の働き方改革に関する目標】

- 夏季休業中等の学校閉庁日を10日以上設定し、教職員が働きやすい環境を整備し、長時間勤務の解消を図る。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 95%以上 にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
- 小学校学力経年調査における、「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を 91%以上 にする。
- 学校アンケートにおける「あいさつをしている」の項目において、児童の肯定的な回答の割合 95%以上 を維持する。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「あてはまる」と回答する児童の割合を 57%以上 にする。
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1ポイント向上 させる。
- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合 85%以上 を維持する。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合 80%以上 を維持する。
- 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 77%以上 にする。
- 日本漢字能力検定を受検し、合格率を 90%以上 にする。
- 学校アンケートにおける「必要に応じて手洗いをしていますか」の項目において、児童の肯定的な回答の割合 90%以上 を維持する。
- 学校や地域について探求し、説明できる子どもを育てる。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 52%以上 にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く。]
- 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 85%以上 にする。

(様式 2-1)

大阪市立西天満小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート①）

評価基準 A：目標を上回って達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった		B：目標どおりに達成した D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
年度目標	達成状況	
【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を <u>95%以上</u> にする。 ○ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ○ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 ○ 小学校学力経年調査における、「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を <u>91%以上</u> にする。 ○ 学校アンケートにおける「あいさつをしている」の項目において、児童の肯定的な回答の割合 <u>95%以上</u> を維持する。 	B	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【基本的な方向 1-1、いじめへの対応】 <ul style="list-style-type: none"> ・ いじめのアンケート調査を定期的に実施し、当該児童からの訴えを的確に聞き取り、事後指導により解決できるようにする。また、いじめが発生したときは、「学校いじめ防止基本方針」に則り組織的に対応する。 ・ スクリーニングシートを活用し、数値の高い児童を中心に情報共有に努め、事態の把握に努める。 	B	
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・ いじめのアンケートを<u>年3回</u>（学期に1度）実施、記録し、事後指導を行う。 ・ 年度当初に「学校いじめ防止基本方針」について、教職員内で共通理解を図る。 		
取組内容②【基本的な方向 1-3、問題行動への対応】 <ul style="list-style-type: none"> ・ みんなが気持ちよく、楽しく学校生活を送れるよう、学校のきまりの大切さを知って守れるようにする。 ・ 暴力事件について教職員で共通理解し、区役所、SSW、SC などとの連携を図り、問題事象の解決を図る。 ・ また、大きな暴力行為が発生した場合は、「学校安心ルール」や本市指針に則り組織的に対応する。 	B	

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学級に「学校の決まり」「学校安心ルール」を掲示し、常に意識できるようにする。きまりを守りにくい児童には、一人一人に合わせた継続的な指導を行う。 事象が発生したときに、教職員全員で情報を共有し、必要に応じてケース会議を設ける。 	
<p>取組内容③【基本的な方向 1-2、不登校への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 不登校児童や不登校傾向にある児童について教職員で共通理解し、区役所、SSW、SCなどとの連携を図り、問題事象の解決を図る。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 事象が発生したときに、教職員全員で情報を共有し、必要に応じてケース会議を設ける。 毎月、児童理解研修会を行い、不登校児童についての情報を共有する。 	B
<p>取組内容④【基本的な方向 2-1、道徳教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「あいさつ日本一」を合言葉に、児童朝会や日々の指導を通して、児童同士、教職員、PTA、地域の方、来校者に「自ら進んであいさつをする」という意識を高める。 児童会（委員会）活動を計画的に実施する。 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

年度当初の職員会議にて、「学校いじめ防止基本方針」について教職員内で共通理解を図る機会を設けている。

毎学期のいじめアンケートでは、1学期実施分については、校内で当該児童への聞き取りや事後指導を確実に行った。1学期のいじめアンケートの認知件数は15件あり、解決に向けて当該児童間で合意形成をする場面を設定したり、学校組織全体で情報を共有したりして1学期末にすべて解決している。

※2 学期いじめアンケートは、聞き取り及び事後指導を実施中が11件

※3 学期末にもいじめアンケート実施予定

1学期の「いじめについて考える日」では、全校集会にて絵本教材を用いて学校全体でいじめについて考えたり、各学級で特別の教科・道徳で考えを深めたりした。また、2学期には、全学年人権啓発キャッチフレーズに取り組み、日々いじめや人権に対しての意識を高めている。一方で、学校アンケートの「いじめは、どんなことがあっても絶対にいけないことだと思う」に対する肯定的な回答が94.5%であった。今後より一層指導に努めていく。（小学校学力経年調査アンケートは12月、第2回学校アンケートは1月に実施予定）

取組内容②

学校生活を送る誰もが気持ちよく過ごすことができるよう、4月に「学校生活のきまり」を各学級で担任が説明をして配付し、各学級教室や特別教室に掲示することで常に意識できるようにしている。ただ、学校アンケートの「学校や学級のきまりを守ってすごしている」に対して否定的な回答をした児童が5.2%いた。学校のきまりを守りにくい児童については、今後も個別に指導を続けていく。なお、暴力事象については今年度は0件である。

学校アンケートの「学校に行くのは楽しい」の項目では、94.9%の児童から肯定的な回答を得ることができた。しかし、5.1%の児童は否定的な回答であったため、今後も児童の実態把握を継続的に進める必要がある。

取組内容③

今年度1学期の不登校児童は6名（不登校傾向のある児童も含めると9名）であり、10月末時点では6名（傾向のある児童も含めると8名）である。しかし、学校とSSWや北区役所・子育て支援室・SC等との連携により、昨年度よりも登校できる日数が増え改善傾向がみられる児童も複数名いた。また、6月に学びの多様化学校「心和中学校」にて、本校教職員向けに研修会を実施し、手立てや支援の仕方について知見を深めた。

今後も関係諸機関と児童や家庭の情報について情報共有し、専門的な観点からの協力も得ながら、児童が社会的に自立できるよう継続して取り組んでいく。

取組内容④

あいさつについては、全教職員が日々登校指導や学級指導、授業時間における指導等を行っている。また、児童会が主体となり「あいさつ強調週間」を計画し、1学期（6月16日～20日）、2学期（9月22日～26日）に実施した。学校アンケートの「先生や友達にあいさつをしている」の項目では97.1%、「旗当番の方や地域の方にあいさつをしている」の項目では93.4%から肯定的な回答を得ることができた。アンケート結果の通り、しっかりと声を出したあいさつができている児童が多くいる一方、会釈をするだけの児童や、声を出しにくい児童もあり、継続して指導をしていく。

次年度への改善点

(様式 2-2)

大阪市立西天満小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート②）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「あてはまる」と回答する児童の割合を <u>57%以上</u> にする。 ○ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より <u>1 ポイント向上</u> させる。 ○ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合 <u>85%以上</u> を維持する。 ○ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合 <u>80%以上</u> を維持する。 ○ 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を <u>77%以上</u> にする。 ○ 日本漢字能力検定を受検し、合格率を <u>90%以上</u> にする。 ○ 学校アンケートにおける「必要に応じて手洗いをしていますか」の項目において、児童の肯定的な回答の割合 <u>90%以上</u> を維持する。 ○ 学校や地域の特色について探求し、説明できる子どもを育てる。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 4-1、言語活動・理数教育の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日記「たくましくのびていこう」の取組を通じて、豊かな表現力を身に付けることができるようとする。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日記「たくましくのびていこう」を毎日継続して意欲的に取り組めるよう日々指導を続ける。年度当初には、書き方やページ活用の仕方についての日記指導を行う。（<u>1 か月で 1 冊、年間 12 冊、6 年間で 72 冊</u>）。 	B
<p>取組内容②【基本的な方向 4-1、言語活動・理数教育の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 漢字の意味をしっかり理解させ、文章や会話の中で正しい日本語が使えるようにするために、学級で毎日少しづつ漢字の学習を進める。また、2 学期までに漢字の学習を終え、3 学期は、漢字を「読む」「書く」という知識量のみならず、漢字の意味を理解し、文章の中で適切に使えるようにする。 	B

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 全児童が日本漢字能力検定を受検し、合格率を<u>90%以上</u>にする。 	
<p>取組内容③【基本的な方向 4-2、「主体的・対話的で深い学び」の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大阪市の授業スタンダード「3つの学 bee」（「自分の考えを形成して、表現したり創造したりする学び」「自らの考えを広げ深める対話的な学び」「興味や関心を持ち、見通しを持って粘り強く取り組み、振り返って次につなげる学び」）を進める。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校アンケートの「授業のはじめに目標が示されていたと思いますか」「学習内容を振り返る活動をよく行っていますか」、小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「あてはまる」と回答する児童の割合を<u>57%以上</u>にする。 	B
<p>取組内容④【基本的な方向 5-1、体力・運動能力向上のための取組の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 運動に親しみ、安全に気を付けて、意欲的に取り組める場を提供する。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> なわとびチャレンジ、かけ足チャレンジなどの取組を計画的に実施する。 児童が自身のがんばりを視覚的に把握できるよう、がんばりカードや資料等を用意し、意欲をもって継続して活動に取り組めるようにする。 体育朝会を<u>年間 10回以上</u>実施し、運動に関する意欲を高める。 	B
<p>取組内容⑤【基本的な方向 5-2、健康教育・食育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分自身の健康や身近な人の健康に気を配り、基本的な生活習慣を身に付けさせる。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣チェックを<u>年 2回以上</u>実施する。 朝会や学級活動、保健・栄養指導を通して手洗いうがいの大切さを適宜指導する。 毎月保健だよりを発行する。学校アンケート「必要に応じて手洗いをしていますか」という項目において、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した者の割合<u>90%以上</u>を維持する。 栄養教諭等による食育を推進する（全クラスの授業、食育・給食だよりの発行、毎日の給食についてHPに掲載）。 	B
<p>取組内容⑥【基本的な方向 4-2・2-5、「主体的・対話的で深い学び」の推進・多文化共生教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちが住んでいる町について「好奇心」をもって探求し、表現（説明）できる子どもたちを育てる。自分の町や市に誇りをもち、社会の平和を願い、地域や社会の発展に寄与する態度を育てる。そのために、生活科や総合的な学習の時間を活用し、計画的に取り組むようとする。 学校や地域の歴史や文化等について学んだことを発表する機会を設ける。 	B

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校アンケート「西天満小学校や自分の住んでいる地域が好きですか」の肯定的 回答 <u>90%以上</u>を維持する。 	
<p>取組内容⑦【基本的な方向 4-3、英語教育の強化】</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「小学校低学年からの英語教育」として、全学年<u>週1～2回</u>、英語タイムを実施する。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①</p> <p>「たくましくのびていこう」の指導については、全学年で年度当初に、書き方やページ活用（書く内容に困ったときに題材を選ぶページ「えらんでみよう」や、様々な表現方法の言葉が掲載しているページ「つかってみよう」等）について指導を行った。「たのしくつながるたくましく」をめざす日記像として、児童が能動的に書くことができるよう、朝の会・帰りの会や学級通信などで日記内容の紹介を行う等の取り組みを続けてい る。</p>	
<p>取組内容②</p> <p>漢字の意味や読み方・画数等を理解して正しく使えるように、日々漢字指導に努めている。また、定期的に漢字の小テストを行い、漢字を読み書きする力の定着を図っている。令和8年1月23日（金）の日本漢字能力検定に向けて、2学期末までに当該学年の漢字を習得できるよう指導を進めている。</p>	
<p>取組内容③</p> <p>学校アンケートの「授業のはじめにめあて（目標・ねらい・課題）が示されている」の項目では82.4%、「授業の最後に学習の振り返りをよくしている」の項目では62.3%、「授業中、友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている」の項目では63.7%から最も肯定的な回答を得ることができた。児童が自己調整し自律的・探究的に学んでいくためには、振り返りを行うことでのメタ認知能力を高めていくことも有用とされている。そうした能力を育成し、児童が学習に対しての意識を高めていけるよう、日々の学習活動に取り組んでいく。</p>	
<p>取組内容④</p> <p>学校アンケートの「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることがすき」の項目では、71.4%の児童が最も肯定的な回答をしている。学習活動においては、体育科学習カード（bingoカード等）を用い、児童が主体的・協働的に取り組めるようにした。また、体育朝会で体を動かすことのよさが意識できるよう工夫し、10月までに5回実施し、年度末までには合計10回実施予定である。今後も、11月になわとびチャレン</p>	

ジ、12月に縦割り班による大縄集会、3学期にかけ足チャレンジを予定しており、運動に関する意欲を高めていけるよう働きかけていく。

取組内容⑤

生活習慣チェック（キラキラチェック）を計画し、1学期（6月23日～27日）に実施、2学期にも予定している。学校アンケートの「健康にすごすために、学校で必要に応じて手を洗っている」の項目では、94.9%の児童から肯定的な回答を得ることができた。しかし、今年度も複数名の児童が手洗いを徹底できていない。今後も、保健・栄養指導、学級指導等で継続的に指導していく。

健康委員会（委員会活動）では、月1回「せいけつしらべ」を実施し自身の生活習慣を振り返ったり、児童集会や学校保健委員会にて「はみがき」「目の健康」について発表をしたりし、全児童が健康な生活を送ることができるよう促している。また、月1回、保健だより、給食だより・食育だよりを発行し、各家庭に健康や食生活等について啓発する活動を継続して行っている。

取組内容⑥

生活科や総合的な学習の時間を活用し、地域や学校のことを調べる活動を通して、地域愛や学校愛を育めるよう取り組んでいる。学校アンケートの「西天満小学校や、自分の住んでいる地域のことがすき」の項目では、94.9%の児童から肯定的な回答を得られている。

取組内容⑦

全学年週1回以上、朝の時間に英語タイムを実施している。英語が楽しく学べるように、歌・絵本・フォニックスの活動を組み合わせ、工夫して取り組んでいる。

学校アンケートの「外国語（英語）の勉強は好きですか」の項目では、85.7%の児童から肯定的な回答を得られている。

次年度への改善点

大阪市立西天満小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート③）

評価基準 A：目標を上回って達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった		B：目標どおりに達成した D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
年度目標	達成状況	
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>【ICT の活用に関する目標】</p> <p>○ 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の <u>52%以上</u> にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く。]</p> <p>【教職員の働き方改革に関する目標】</p> <p>○ 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を <u>85%以上</u> にする。</p>		B
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p> <p>取組内容①【基本的な方向 6-1、ICT を活用した教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> GIGA スクール端末を活用した学習を習慣化し、端末を文房具同様に身近なものとして扱い、学習データを蓄積することで個別に最適化された学習システムを活用できるようにする。 		進捗状況
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 人 1 台学習者用端末の年間活用率 <u>90%以上</u> を維持する。 デジタルドリル「navima」については、各学年の実態、学習状況等に応じて、各授業担当者（学級担任、専科教員等）がデジタルドリルの内容を把握して、取り組む課題を精査し、効果的に活用する。 		B
<p>取組内容②【基本的な方向 7-1、働き方改革の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 印刷時間を短縮するためにペーパーレス化を進める。（環境保護も視野に入れて） ゆとりの日を年間 <u>12 回以上</u> 確実に実施する。 専科指導を充実させ、教員の授業の空き時間の確保に努める。 		B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度も夏季休業中等の学校閉庁日を <u>10 日以上</u> 設定し、教職員が働きやすい環境を整備し、長時間勤務の解消を図る。 		B
<p>取組内容③【基本的な方向 8-2、大阪市子ども読書活動推進計画に基づいた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 週 <u>3 回</u>、朝の時間に読書タイムを設け、読書習慣が身につけられるようにする。 図書委員会で、読書の啓発に関する取組を行う。 		B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 大阪市小学校学力経年調査において、「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合 <u>80%以上</u> を維持する。 		B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

端末配備の関係上、10月中旬までは2年生以上の児童が、10月中旬以降は全学年が学習や学校生活において1人一台端末を活用している。2年生以上は、デジタルドリル「navima」を活用し、子ども一人一人の学習進度や学習到達度等に応じながら、指導の個別化を図っている。夏季休業中には、児童が復習し取り組みたい内容を自身で選択して実施できるようにした。今後も全学年で、授業の振り返りや冬休みの宿題として活用する予定である。

また、毎日、児童がスクールライフノート「心の天気」に自分の気持ちを入力するよう指導している。教職員が児童の入力状況を確認することで、児童の心の状態を把握し、児童との関わりや指導に活用している。中学年・高学年児童においては社会科や総合的な学習の時間等の調べ学習で使用し、2年生以上の学年においては端末を一日の中で複数回用いる日も多い。

取組内容②

職員会議資料のペーパーレス化に取り組んでいる。夏季休業中の児童の課題については、復習用の冊子を活用することで、印刷して児童に配付するプリントの枚数を削減することができた。

また、ゆとりの日（ノー残業デー）については、10月末までに10回設定し、今後も年間12回以上の実施ができるよう調整している。専科指導については、今年度も全学年で実施し、各教員が授業準備や児童理解等に充てる時間を確保できるようにして仕事の効率化を図っている。学校閉庁日についても、夏季休業中に7日間、冬季休業中も3日間設定予定であり、教員の長時間勤務の解消に努めている。また、始業前業務についても校内で取り組み方について共有する機会を設け、更なる時間外勤務時間の縮減に努めている。

取組内容③

朝の時間に「読書タイム」を実施し、継続的に本を読む習慣をつけている。週1回学校司書が図書室に在室し、どの休み時間にも図書室を訪れることができる「図書館1日開いてんデー」や、月1回PTAによる各学級での「読み聞かせ活動」等を実施している。

また、図書委員会による委員会活動では、5月の児童集会で、図書室での本の借り方や本の取り扱い方等、図書室の利用や活用の仕方について発表した。さらに、委員会児童がおすすめの本をポスターにまとめて各学年に紹介する活動や、11月の読書週間で「読書bingo」を実施し、児童が様々なジャンルの本に親しめるような活動を行っている。今後も、読書習慣を身に付けられるよう、委員会児童が主体になって取り組む計画をしている。

学校アンケートの「読書は好きですか」の項目では、92.3%の児童から肯定的な回答を得られている。

次年度への改善点